

提出日： 2026 年 4 月 2 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
総合政策学部	教授	加藤久典

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。	
	1. 2025年4月 1日 ～ 2026年3月31日	1
	2. 2025年9月 1日 ～ 2026年8月31日	
	3. 2025年4月 1日 ～ 2025年9月20日	
	4. 2025年9月21日 ～ 2026年3月31日	
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。	
	インドネシア社会の変化に注目して、研究活動を行った。ジャカルタの近代化が進む都市部とスマラン(中部ジャワ州)の中核都市で、インドネシア人の宗教行動や実践にどのような違いがあるのか、消費活動の習慣などについて主に参与観察を行った。また、ディポネゴロ大学の文化学部の教員と、日本とインドネシアの社会変化の実際について意見交換を行った。また、同学部やイスラーム大学において、研究発表講演を行った。 ●2025 年 10 月 23 日 国立ディポネゴロ大学研究講演会 ●2025 年 10 月 30 日 国立イスラーム大学(スラカルタ)研究講演会 ●2026 年 2 月 4 日 国立インドネシアイスラーム国際大学(デポック)シャーフック・ハシム副学長と意見交換 ●2026 年 2 月 5 日 M・ソバリ(ジャカルタ)国立インドネシア大学博士と意見交換 ●2026 年 2 月 6 日 ナショナル大学(ジャカルタ) M・アブドゥラ講師と意見交換	
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。	
	インドネシア社会の変化がより明らかになった。特に宗教観念や宗教心の変化などについての知見を得ることができた。またイスラームの解釈の違いにより、ムスリムの行動様式に変化があることもわかった。それには、土着文化の影響が強いことも示唆された。これらの活動を通して、インドネシアにおける学術研究者との交流も広がり、今後の研究活動の一助となると考えられる。	
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。	
	インドネシア学術研究者との共同研究なども視野に入れたい。また、インドネシアと日本の社会変化や宗教観念についても比較研究を行いたい。	